

にいかした

北から南から



国のため

人のため

子どものため

あずま こうじ

桜花 いのち一ばいに咲くからに

生命をかけて わが眺めたり

岡本かの子の短歌です。いのちいっぱい咲いているから、私もいのちいっぱい花をみますという、さわやかで生きいきした歌です。大らかでいきおいのある歌です。

私は二十五、六歳の頃に、ふっと「子どものためだと思って吐っているつもりだけど、ほんとうにそうなんだろうか」と心に問いかけました。一年間続けたら、疲れ果てました。ほとんど全てが、自分のためでした。自分の見えのため、自分の誇りのため、自分の信

念のためでした。子どものためだと確信したとき以外は叱らないと決めたのは、きびしいことでした。だから、一年間だけでやめました。かの子の歌は、花のために、というのとちょっと違います。いっしょうけんめい咲いているから、いっしょうけんめいみるといっているのです。基本が違います。

私は、十五歳まで軍国少年でした。その頃も天皇陛下のために、お国のためにということとを口にしました。天皇陛下のためにというのは当時もあんまり本気じゃなかったような気がします。だけど、お国のためにというのは本気だったように思います。しかし、それはスローガンに振りまわされているだけ、お国のためとはどんなことか、基本的には何も考えていない観念的なものでした。

今なら、差しあたり、生まれ育った自然と共に生きてきた人びとと共に生きることが、私の考えている「お国のため」なのかもしれません。だが、それでも「お国のために」ということばは使いたくありません。

「人のために」ということばは微妙です。人に喜んでもらえたとき、自分も幸せになり嬉しくなるのは事実です。だけどそれを「人のため」と言ってしまうと、嘘っぽくなります。

中味のない、空っぽのことばが無闇に一人歩きして、そんな嘘のことばを勢いよくまき散らして歩く首相の人氣が上がるのは、ドイツのヒットラー時代を思い出して慄然とします。

桜花いのち一ぱいに咲くからに

生命をかけてわが眺めたり

この桜花は、私には子どもたちだと見えるし、大袈裟かもしれないが、生命がけて眺めるといふことの本質を見極めたいと思います。(あずま こうじ・いしかわ県民教育文化センター)



創立45周年に思う

野沢 静義

創立四十五周年、第四十回総会おめでとございます。音楽を通して交流を広げ、心豊かな社会を創るのが、私達の願いです。共に歩んでまいりましょう。十月にお会いする日を心から楽しみにしています。

(日本フィルハーモニー交響楽団)

日本全国の中で、四日も連続、満杯のお客様のコンサートは新潟だけです。皆様の音楽に対する熱い思いとエネルギーに感動致しました。皆様から頂いたあの熱い拍手を大きなエネルギーにして、元気で歌い続けて参ります。ますますのご発展を心からお祈り申し上げます。

(ベギー葉山)